かんわケア Press
2024年 7月 vol.35
たたらリハビリテーション病院 緩和ケア病棟 広報誌

日本医療機能評価機構 認定病院
ISO 9001 BUREAU VERITAS Certification
JAB MS CM042
HPH
日本緩和医療学会認定研修施設
在宅療養支援病院

発行:たたらリハビリテーション病院 緩和ケア病棟
〒813-0031 福岡市東区八田1-4-66 tel:(092)691-5508(代表)
http://www.tatara-reha.jp

緩和ケア病棟 新師長のご挨拶

2024年4月から緩和ケア病棟の師長となりました、桐原智秋と申します。たたらでは20年近く勤めていますが、師長としては1年目の新米師長です。頼もしいスタッフに支えてもらいながら、日々いろんなことを吸収して成長していきたいと思っています。

新師長・桐原智秋

プライベートでは、3人の子供を育てる母親であり、笑ったり怒ったり走り回ったりと、育児奮闘中です。

私は看護学生の時に、祖母を緩和ケアで看取りました。悲しい思い出ながらも、今でも記憶に残っているのは、温かい環境とゆっくりした時間。

私の中で緩和ケアがいつしか目標の1つとなっていました。

縁あって、緩和ケア病棟で師長として携わることとなり、私がこの病棟に来て働きながら感じることは、スタッフの意識の高さと患者さんやご家族の「今」を大事に思う心に満ちているということです。

私自身や家族がもし闘病で入院が必要となったなら、私はこの病棟のスタッフに看てもらいたいと思えます。そんなスタッフがこれからも働き続けられるように、患者さんと向き合う時間をしっかりつくれるように、働く環境を整えていきたいなと思っています。

そうすることによって、ここで過ごされる患者さんやご家族にとっての大事な時間、「今」にもっと寄り添うことができるのではないかと思っています。これは大きな夢であり、課題かもしれませんが、緩和ケア病棟がみんなにとっての温かい場所になりますように。

コロナウイルス感染症の影響から始まった面会制限では、患者さんやご家族に窮屈な思いをさせてしまっていますが、ご協力してくださり、感謝しています。

これからも、緩和ケア病棟をよろしくお願いします。

緩和ケア病棟の
患者さんに寄り添う心のケア

公認心理師・臨床心理士 吉永美緒

初めまして、公認心理師／臨床心理士の吉永です。
緩和ケア病棟では、患者さんの心のケアを担当しています。患者さんの中には、長い闘病生活を頑張って心が疲れていたり、慣れない入院生活に気が張っていたりする方もいらっしゃると思います。それだけでなく、今後のことやご家族のことで心がいっぱいいっぱいになってしまうことだってあるかもしれません。

そういった時に、抱え込んでいるお気持ちを話せる相手としてお役に立てたら幸いです。また、「誰かと一緒にいたいな」「人と話していると落ち着く」と感じられた時に、一緒に楽しくお話しして同じ時間を過ごさせていただくこともあります。

ちなみにプライベートでは家庭菜園が趣味です。休日は土をいじり、収穫したかわいい野菜たちに心癒されています。患者さんから野菜づくりのアドバイスを受けることもあり、貴重な時間を過ごさせてもらっています。

緩和ケア病棟に入院している患者さんたちが少しでも穏やかなお気持ちで日々を過ごせるようお手伝いをさせていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

ボランティアの高校生バイオリニストによる ミニコンサートを開催しました

これまでさまざまなボランティアの方を受け入れてきた緩和ケア病棟ですが、コロナ禍で中止せざるを得ない中で、ある高校生から「自分のバイオリンの音色で患者さんを元気づけたい！」と飛び入りで相談がありました。緩和ケア科長の平田先生とも話をし、「面会制限などでおつらい思いをしている患者さんのために素敵なひとときになるだろうし、ボランティアに来てくれる高校生の今後の糧になれば」と受け入れることにしました。

美しい音色に耳を傾ける患者さんたち

当日は、音楽療法の松本先生のピアノとコラボしたミニコンサートを開きました。

とても滑らかなバイオリンの音色に耳を傾け、目を瞑ってじっと聴き入る患者さんや、演奏する高校生を優しい眼差しで見つめて聴き入る患者さん。ちなみに平田先生は椅子から微動だにせず、目を瞑り聴き入っていました。ロビーに出てこられなかった患者さんのお部屋にも訪室し、病室で演奏をして、病棟のスタッフも一緒にバイオリンの音色に癒されたひとときに。

短い時間ではありましたが、面会制限で寂しい思いをされている患者さんへのささやかな贈り物となりました。

／素敵なひとときをくれた高校生に感謝！／